

2 地形

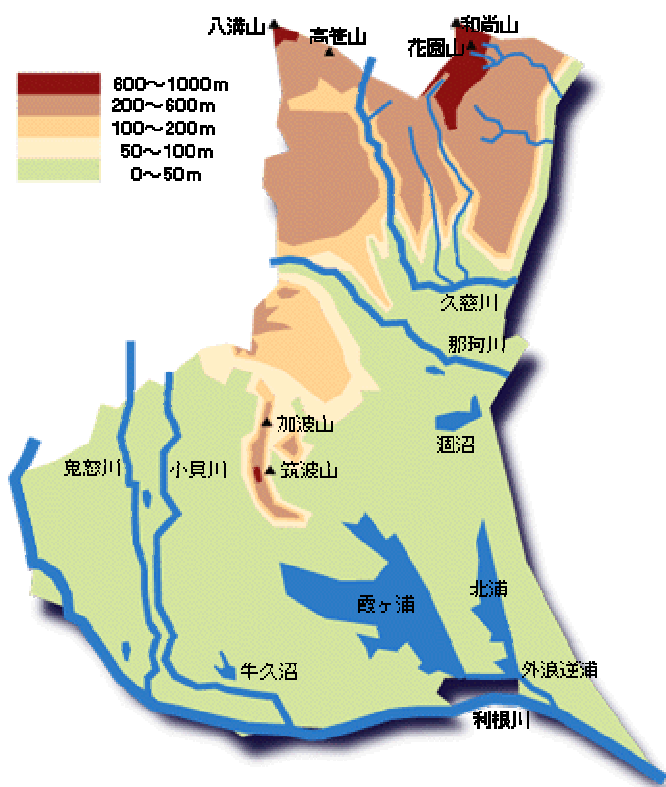
本県は、関東平野の北東部にあり、県北地域の東部と県央、鹿行、県南、県西地域にかけて広大な平野を形成しています。全国及び関東地方と比較すると、関東地方は全国に比べて平坦部(低地、台地)が大きな割合を占めていますが、本県は、関東地方の平均 46.1%よりもさらに平坦部の割合が高く、県土面積の 64.4%を占めています。

山地については、阿武隈山地の南端部に当たる八溝山地を中心とする県北、県央地域の西部と筑波山を中心とする県南、県西地域の一部に分布していますが、一般になだらかな山容となっています。

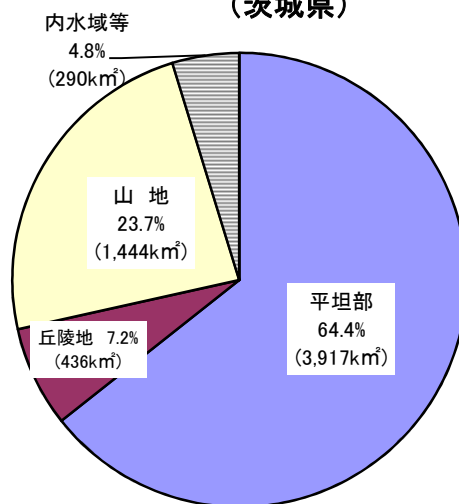
また、県北地域には久慈川、県央地域には那珂川、県南、県西地域の県境には利根川が流れており、いずれも太平洋に注いでいます。さらに鹿行、県南地域には霞ヶ浦、北浦、外浪逆浦などの広大な湖沼が分布しています。

このように、本県の地形は、関東ローム層に覆われた広大な平野と北部・北西部のなだらかな山地及び南部の湖沼から構成されています。

図表 1-2-1 茨城県の地形



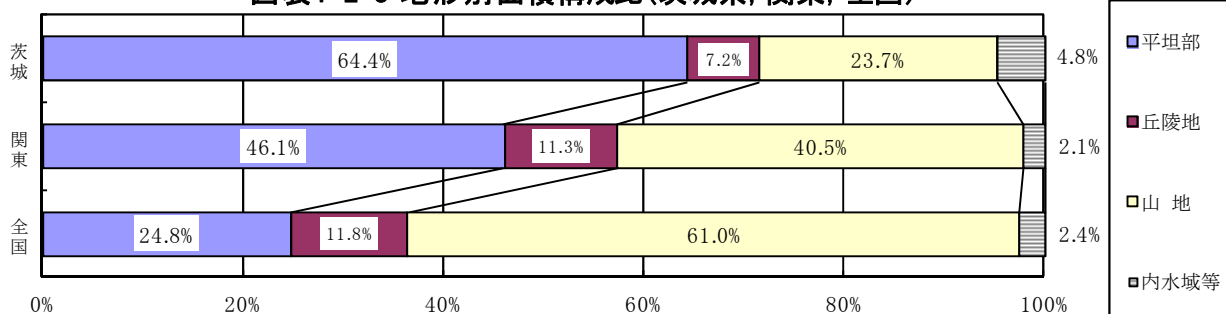
図表1-2-2 地形別面積構成比 (茨城県)



資料：国土地理院

「昭和 57 年度国土数値情報作成調査」

図表 1-2-3 地形別面積構成比(茨城県, 関東, 全国)



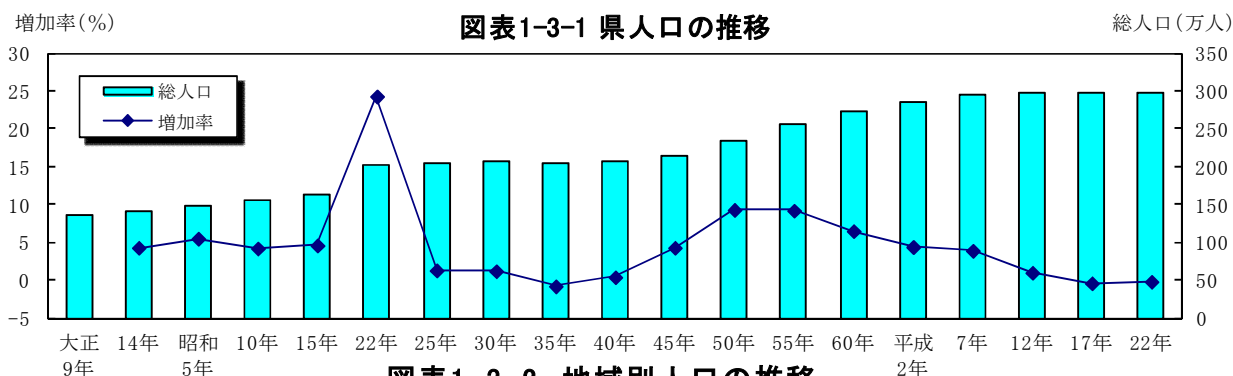
3 人口

(1) 人口の推移

本県の人口は、平成22年国勢調査（平成22年10月1日現在）の結果によれば、2,969,770人（男1,479,779人、女1,489,991人）となっており、前回調査（平成17年）からは、5,397人（0.2%）減少しました。

昭和22年から40年まで横ばい状態であった本県の人口は、40年代に増加に転じ、50年代には10%近い増加率を示しましたが、60年以降は増加率が鈍化する傾向となり、平成22年調査では昭和35年以来45年ぶりの減少に転じた前回調査（平成17年）に引き続き減少となりました。

地域別にみると、前回調査（平成17年）との比較で、県北地域と県西地域の2地域で人口が減少しました。一方、県央地域の人口は横ばい、鹿行地域、県南地域では人口が増加したものの、鹿行地域の増加率は前回より低下しています。なお、県南地域は、人口、増加率が最大で、人口は県全体の約3分の1を占めています。



図表1-3-2 地域別人口の推移

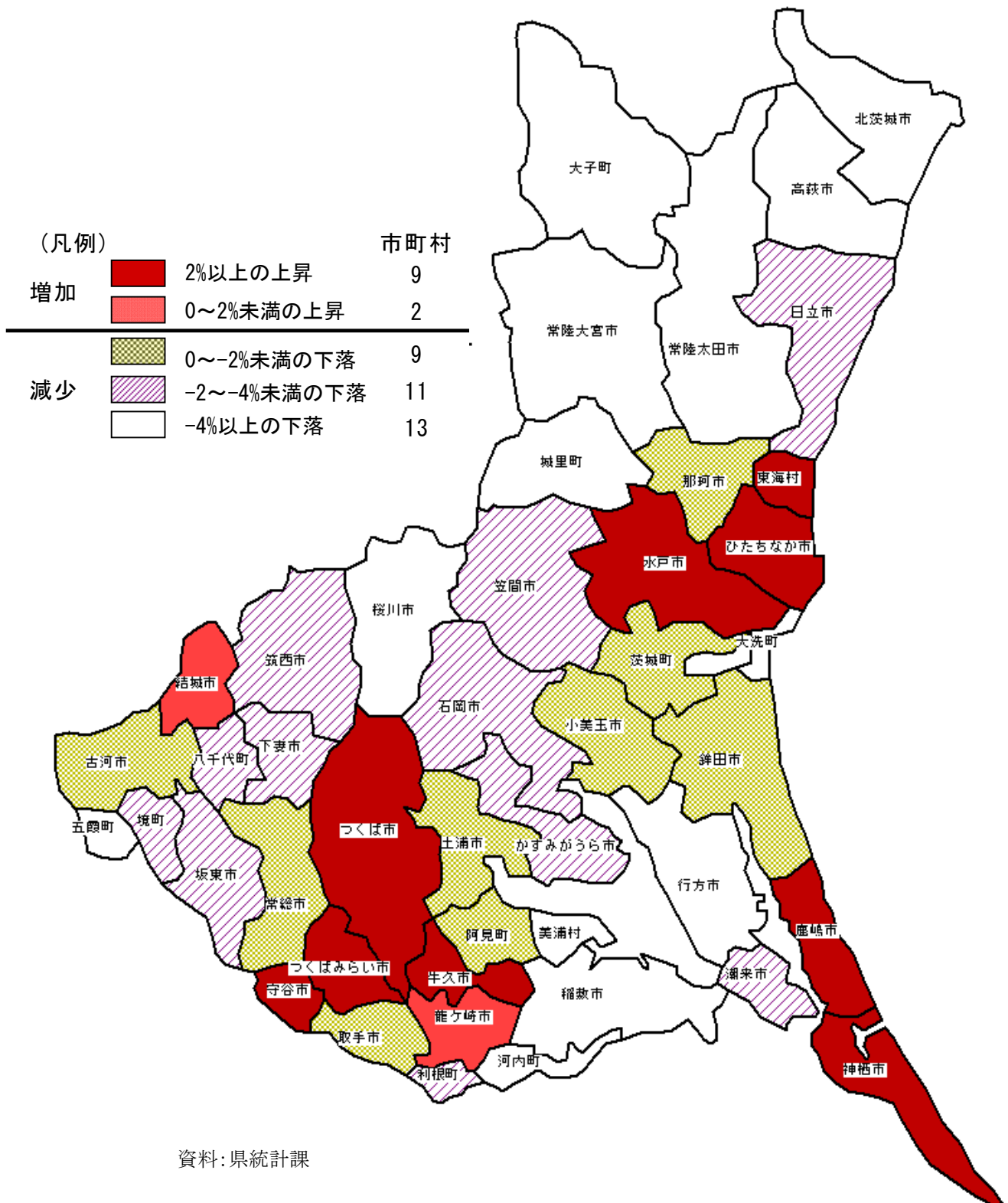
| 地域 | | 年 | | | | |
|------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | 平成2年 | 7年 | 12年 | 17年 | 22年 |
| 県計 | 人口(人) | 2,845,382 | 2,955,530 | 2,985,676 | 2,975,167 | 2,969,770 |
| | 増加数(人) | 120,377 | 110,148 | 30,146 | △ 10,509 | △ 5,397 |
| | 増加率 | 4.4% | 3.9% | 1.0% | -0.4% | -0.2% |
| | 構成比 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 県北地域 | 人口(人) | 663,014 | 670,327 | 668,674 | 655,302 | 641,411 |
| | 増加数(人) | 7,944 | 7,313 | △ 1,653 | △ 13,372 | △ 13,891 |
| | 増加率 | 1.2% | 1.1% | -0.2% | -2.0% | -2.1% |
| | 構成比 | 23.3% | 22.7% | 22.4% | 22.0% | 21.6% |
| 県央地域 | 人口(人) | 463,555 | 472,385 | 475,586 | 474,571 | 474,770 |
| | 増加数(人) | 10,686 | 8,830 | 3,201 | △ 1,015 | 199 |
| | 増加率 | 2.4% | 1.9% | 0.7% | -0.2% | 0.0% |
| | 構成比 | 16.3% | 16.0% | 15.9% | 16.0% | 16.0% |
| 鹿行地域 | 人口(人) | 260,664 | 269,218 | 274,237 | 278,915 | 279,189 |
| | 増加数(人) | 9,656 | 8,554 | 5,019 | 4,678 | 274 |
| | 増加率 | 3.8% | 3.3% | 1.9% | 1.7% | 0.1% |
| | 構成比 | 9.2% | 9.1% | 9.2% | 9.4% | 9.4% |
| 県南地域 | 人口(人) | 869,449 | 939,973 | 968,296 | 977,236 | 1,000,060 |
| | 増加数(人) | 73,507 | 70,524 | 28,323 | 8,940 | 22,824 |
| | 増加率 | 9.2% | 8.1% | 3.0% | 0.9% | 2.3% |
| | 構成比 | 30.6% | 31.8% | 32.4% | 32.8% | 33.7% |
| 県西地域 | 人口(人) | 588,700 | 603,627 | 598,883 | 589,143 | 574,340 |
| | 増加数(人) | 18,584 | 14,927 | △ 4,744 | △ 9,740 | △ 14,803 |
| | 増加率 | 3.3% | 2.5% | -0.8% | -1.6% | -2.5% |
| | 構成比 | 20.7% | 20.4% | 20.1% | 19.8% | 19.3% |

資料：県統計課「平成22年国勢調査人口等基本集計結果概要」

(2) 市町村人口の増減

人口の増減について、平成22年調査時と前回調査（平成17年）時で比較してみると、44市町村のうち、11市村（10市1村）で増加し、33市町（22市10町1村）で減少しています。そのうち13市町村（7市5町1村）の人口の減少率が4%以上となっています。

図表 1-3-3 人口増加率（平成17～22年）



4 茨城県を取り巻く主な動向

近年の日本・世界の動向としては、平成 19 年にサブプライムローン問題の発生、平成 20 年には、アメリカのリーマン・ブラザーズの経営破綻により、世界同時不況に陥りました。

茨城県内に目を向けると、平成 22 年に開港した茨城空港においては、平成 24 年から那覇便が、平成 26 年から福岡便が就航するなど、ますます利便性が向上しています。港湾については、茨城港・鹿島港において、震災後、耐震化が講じられるなど復旧が着々と進んでいます。道路についても、平成 23 年には北関東自動車道の全線が開通し、北関東～太平洋間の交流がスムーズになりました。また、首都圏中央連絡自動車道の建設も着々と進んでいるほか、つくばと秋葉原を結ぶつくばエクスプレスの輸送人員も順調に増加しており、陸・海・空の広域ネットワークの整備が進行するとともに、着実に東日本大震災からの復旧・復興が進んでいます。

図表 1-4 茨城県及び日本・世界の主な動向

| 西暦 | 和暦 | 茨城県内の動向 | 日本・世界の動向 |
|------|-------|--|-----------------------------|
| 1999 | 平成 11 | 東海村 JCO 臨界事故発生 | |
| 2000 | 12 | 北関東自動車道初開通 (友部 JCT～水戸南 IC) | 九州・沖縄サミット開催 |
| 2001 | 13 | カシマサッカースタジアムがリニューアルオープン | アメリカ同時多発テロ事件発生 |
| 2002 | 14 | 2002FIFA ワールドカップが鹿嶋市で開催 | 2002FIFA ワールドカップ開催 |
| 2003 | 15 | 首都圏中央連絡自動車道県内初区間開通 (つくば JCT～つくば牛久 IC) | イラク戦争勃発 |
| 2004 | 16 | | 新潟県中越地震発生 |
| 2005 | 17 | 首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス開業 | 愛知万博開催 |
| 2006 | 18 | 平成の大合併で 32 市 10 町 2 村に再編される | |
| 2007 | 19 | | 新潟県中越沖地震発生 サブプライムローン問題発生 |
| 2008 | 20 | 北関東自動車道県内区間が全通 | 米国リーマン・ブラザーズ経営破たん |
| 2009 | 21 | | |
| 2010 | 22 | 茨城空港開港 | |
| 2011 | 23 | 東日本大震災、福島第一原発事故発生 北関東自動車道全線開通 茨城空港神戸便・札幌便が増便 | |
| 2012 | 24 | 茨城空港那覇便が就航 | 東京スカイツリー開業 |
| 2013 | 25 | | 2020 年東京オリンピック開催決定 |
| 2014 | 26 | 茨城空港福岡便が就航 | 消費税率 8 パーセントへ引き上げ |